

コムシティ再生のあり方検討会 第6回会議 会議録

日 時：平成23年7月21日(木) 15:00～17:00

場 所：北九州市役所本庁舎5階 プレゼンテーションルーム

出席委員：15名(斎藤会長、伊藤委員、原田委員、広瀬委員、上野委員、太田委員、菅原委員、中村委員、安東委員、池本委員、末広委員、寺坂委員、芳賀委員、羽田野委員、林田委員)

会議次第

1. 開会
2. 報告事項
3. 議事
4. その他
5. 閉会

議事要旨

1. はじめに

会 長 今日が第6回目の会議となるが、第4回目までは状況認識と中間のまとめを行った。第5回目では、第1点目に、建物が具体的にどのような改修が可能なのか、設計者に図面等を出していただいて検討した。第2点目に、理想像ではなく、建物の空間(面積)を確認しながら、どのような使用方法が可能なのか、具体的に検討した。これらをコンセプトに落とししていくのが最後の段階である。

今日の段階で、実質的な議論の骨格を決めたい。それに基づいて最終的な報告書を、私と事務局でつくり上げ、最終回の会議にかけたいと考えている。従って、今日の会議は重要な会議になる。各委員とも思いがたくさんあると思うので、自由な意見を出して、理想と現実を考えながら、どこまで具体化できるか検討したい。

2. コンセプトと施設構成について

(1) 会長説明

会 長 まず、私の方で、今まで議論してきた内容からどのような方向性が考えられるか、議論のたたき台を用意した。皆様と議論しながら、結論を出していきたいと思う。

<事務局から、会議資料により、コンセプトと施設構成について報告>

会 長 議論すべきポイントを要約したい。

コムシティをどうするか考えた場合、市民にとってどのような建物であるか、イメージを明確にする必要がある。そのためには、行政機能が入ったとしても、それはメインではなく、外に情報を発信する市民向けのコンセプトが別に必要だ。行政機能は補完的機能として考えた方がよい。また、早期再生の実現、時間軸を考えた上での実現可能性等にも配慮して、コンセプトを考える必要がある。

会 長 コンセプトについては、これまで議論してきたように、一つは、市民全体の施設であることを重視するものである。そうすると、「人づくり拠点」というコンセプトが考えられる。北九州市には、子どもから、成人、高齢者に到るまで、どのように人を育て、どのような人づくりをするのか、色々な形での人づくり機能が不可欠である。これは小倉都心には十分でない機能なので、全市的な機能として考えられるし、明確に絞り込めばポジティブな情報発信が出来るだろう。同時に、いわゆる子育て・教育日本一、モノづくりの伝承等、市の構想や特性がかなり活かせるのではないか。また、このコンセプトにすれば、かなり広域からの来館が期待できる可能性がある。

もう一つは、地域コミュニティ、地域の住民の方々に焦点をあてたコンセプトづくりが考えられる。「地域コミュニティ活動拠点」としているが、地域の方々が色々なかたちで、NPOもまちづくり団体等も含めて、あらゆるネットワークが交流できるような場をつくり上げるというものである。主な利用対象者を地域住民とし、地域住民のネットワーク・交流の促進や、生活上の相談支援などを行い、利便性を向上させることで、この地域での定住促進を図る。

こういった二つの考え方がある。

コンセプトは、新しいコムシティが何のための施設であるか情報発信するものとして考えるべきだろう。そうであれば、大規模な施設であるので、一つのコンセプトで固める必要はない。また、二つのコンセプト案は完全に対立するものではなく、比重をどちらに置くかという意味で考えることができる。コムシティには広い空間があるので、一方のコンセプトを採用しても、もう一方のコンセプトに含まれる施設や機能を見逃さず、考える必要がある。

会 長 また、前回、具体的な時間軸と空間について議論した。コムシティの再開が考えられる平成25年3月の時点で、どのような機能が具体的に実現する可能性があるのか、私なりに整理した。8月には、検討会として市長に最終報告を出す。市は、それを念頭に置き、議会等で議論し、どういった施設にするか、最終案を出すだろ

う。そして、24年1月くらいには具体的に動き始める。入居施設に関する、市内
部、県・国との調整期間や準備期間は、24年1月から25年3月まで1年2ヶ月
ある。それと同時に、建物の工事をするので、この時間軸で考えると25年3月の
時点でどの程度の機能が実現できるかイメージできる。

12ページの図に示しているように、職業訓練、学術研究等の施設は、運営主体
をNPOがするのか、大学等の機関がするのか等、色々な調整があるので、1年くら
いでは動き始めないと思う。また、行政サービスについては、区役所はすぐに実現
できると思うが、ハローワークや年金事務所等は国の機関なので、交渉も考えると
25年3月に実現できないかもしれない。その他の機能は、25年3月から動き始
めると思う。従って、イメージで考えると、国・県との調整が必要なものや、職業
訓練、技術・技能・知識を伝承あるいは育成するものは、少し長期的に考える必要
があると思う。

今日はこうした点を踏まえ、各委員の最終的な意見を聞きながら、市民が納得で
きるように、この施設のコンセプトの方向性を明確にしたい。

(2) 討議

委員 「市民全体のための施設」のコンセプトの説明で、市の構想や特性を活かした再
生が挙げられているが、人づくりについて、北九州市全体でどのような構想を考え
ていて、その中でコムシティがどのような位置づけになるのかを決めないと、コム
シティ単独では難しいという話があったが、その市の構想がどのようなものか知り
たい。

また、広域からの来街来館が期待できる施設の根拠、理由を知りたい。

事務局 子育て・教育日本一の構想で、コムシティの位置づけを決めた具体的なものはな
い。この検討会で、コムシティに新たな機能を入れる、という意見を頂けば、今後
の計画の中に位置づけていく、ということになる。

広域からの来街、来館については、小倉都心には無い全市的な機能やポジティブ
な情報発信を考えた施設づくりをすれば、自ずと期待できると考えている。

会長 子育ての支援については、皆さん、だいたいのイメージができると思う。技・知
の育成伝承については、専門的な技術をベースにした機械工学系のものに限らず、
色々な領域が可能だと思う。コムシティ近辺には安川電機や三菱化学、それから大
学等もあるので、産官学が連携した人づくりが可能だ。その場合、北九州市でも就
職先が少ない状況があるので、行政が積極的に人材を育成し、企業等就職先をマッ
チングしたり、就職に限らず、自ら事業を創造するための支援策があっても良い。

私は、今までのような専門学校の延長ではなく、アメリカのコミュニティカレッ

ジの延長、それを膨らませたものをイメージしている。これは、移民が職業に就けないので、州がカレッジをつくり、地域の企業の知識と技、そして雇用をつくり上げ、人材を育成するというものである。黒崎地域だけではなく、北九州地域全体を考えた場合、20代30代の方が不況の中で職に就けず苦労しているが、それぞれが自立できるような技能と知識を身につければ違ってくるだろう。公的機関としてそのような機能をサポート、もしくは自らつくり上げるというのが具体的なイメージである。それをPRし本当の機能が果たされれば自然に需要が生まれると思う。

それから、高齢者を対象とした生涯現役のための活動支援については、北九州市では生涯現役・夢追塾等が具体的に動いている。これを各地域で行うということも考えられるが、人が集まる拠点であるコムシティで、その延長線上にあるものをつくれれば、団塊の世代等がエネルギー、力を発揮する起爆剤になると思う。

コムシティが交通の拠点であることも考えると、これらの機能には、黒崎だけでなく、若松、戸畑、中間等も含め、かなり広域からの需要が見込めるし、また、そういった需要をつくれれば良い。ただし、それを担うNPO、団体、大学等が出てこない限り、どのようなものになるかは分からない。

委員 昔の職業訓練と違った、アカデミックなものをつくりたいと思っており、正にその場所は、安川電機、新日鉄、窯業、三菱化学がある黒崎である。また、匠の技、日本一の技を持つ職工さんが、今、中国や韓国に高額の給料で流れている。そういう方の定年退職後の働き場所にもなるし、職工さんの匠の技と、大学の理工系の先生の頭脳と、企業の伝統を上手く組み合わせたら、非常に面白いものになるのではないか。言うは易く行なうは難しいが、そのくらい大きな夢を描いても良い。

会長 技術系だけに特化した場合、コンセプトを大きく膨らますのは難しいと思う。コンセプトは、施設全体が何を目指しているのかという情報発信の機能だと思っている。従って、子どもの館の拡充にしても何にしても、「人づくり」というコンセプトの中に統合できれば良い。ただし、この機能は担う機関とその能力が問題となる。

委員 市民全体の施設、地域住民のための施設、両方ともコンセプトとしては非の打ち所はないが、考える基本は中心市街地活性化であり、コンパクトシティ化の中で、黒崎駅周辺の賑わいづくりが一番の原点である。そのためにコムシティをどのように活用するかが、一番のコンセプトだと思う。滞留時間が長く、皆さんが交流し、街にお金を落としてもらうことが必要だ。色々なものが入るプランを示すのは良いが、入居の交渉が進まず、いつまでも空いているという状況になるのではと心配だ。誰がどのように交渉するのか。事業として考えた場合、ランニングコストは誰が負担するのか。福利厚生的な考え方で市が税金で負担するのか。行政も、医療機関も、子育て機能も入るのは良いが、具体化する場合に、その辺りのことがどうなるのか、

心配だ。

また、報告書には、コンパクトシティとして、黒崎駅を中心とした賑わいづくりで人の交流が活発になるという言葉が欲しい。

会 長

ハコモノを埋めるだけなら良いが、何に使うのかという方向付けをするためには、機能、施設を動かす主体を考える必要がある。第2案の場合は、行政がかなり力を発揮する必要がある。第1案の場合は、行政、地域の企業、大学がどのように連携できるのか、仕掛けはどのようにするのかといった課題がある。しかし、アメリカでもそうだが、人づくり拠点があれば人が集まり、その滞留時間も長い。

行政が入っただけでは滞留時間は限られる。第1案は夜まで使われる施設になるが、ボリュームとしてはコムシティの1フロア分くらいだと思う。ただ、それを象徴として、建物の機能を概念付けることができると思う。その実現には長い期間がかかるのは、委員のご意見どおりであるし、街の賑わいづくりをどうするかを押さえることも必要だと思う。

委 員

人づくりの仕組みづくりはすごく良いことだが、NPO活動や市民活動にしても、それを運営、経営するところが、どのように仕掛けを進めていくかが特に気になる。職業訓練、学術研究は新しい取組みなので、実際にある職業訓練所をコムシティに移し、今議論しているようなものも展開すれば、早く実現できると思うが、ゼロからのスタートだとかなり労力が必要になる。また、新しいことを始めるのには、市民の方々にも抵抗があると思うので、安心材料も打ち出す必要がある。

会 長

どちらの案にしても、ハコモノを埋めるだけでは駄目である。今まで失敗してきたのは、何のための施設か、コンセプトも明確にならないまま動いたからである。こういった施設を市が買い、再生するからには、全体のコンセプトを活かすことができる運営主体、マネジメント機能が極めて重要である。その点は、報告書で明確にしなければならない。

技・知の育成伝承については、費用面からハード整備が難しい。従って、この機能は、既存の職業訓練施設と連携して入れれば良いと思う。具体的な職業訓練は、安川や三菱等と連携しながら、企業の中で実地訓練をするというシステムも考えられる。そういった産官学の連携ができれば良い。

委 員

市が買い取った以上、過去と同じ轍を踏むことがないようにして欲しい。施設の中身よりも運営のやり方をよく考えないと、同じことを繰り返すような気がする。

コムシティに学校をつくる場合、普通の学校ではなく、特色のあるユニークな学校でないと駄目だとの意見がある。人づくりの中身としては、未来塾や夢追塾もあり、最初は女性が多かったが、最近では定年前後の男性が塾生になる傾向が出てきている。場所が良いので、そういうものを置くと成功すると思う。

また、西部障害者福祉会館が不便なところにあるので、場所のいいコムシティに移設してもらいたいという意見もある。

会 長 施設の運営について、ポイントは採算をどうするか、どのように財政負担するのかということである。単独での収益性を考えるべきなのか。採算を考えなくても良いという意見もあるが、施設運営が成功するために、財務をどのように考えるか、市が検討する必要がある。

委 員 以前、この施設は採算を考えると成り立たないと申し上げた。コムシティの建物は、ご利用くださいという構えになっていないので、どうぞご利用くださいという構えに変えるのが、第1のポイントだと思う。

委 員 しっかりしたコンセプト案だと思うが、リーディングパワー、中身の具体化、サクセス又はリスクについては、分析があいまいだと実施時に失敗してしまう。環境も変わり、計画当初のコンセプトが使えなくなるというのが過去の例である。この検討会はコンセプトをつくる、あり方を提案するというものだ。しかし、実施にあたっては、何がサクセスのキーファクターになるのか、どのようなリスク分析が必要になるのか、一般のビジネスの方法論を取り入れて考えないと、コンセプトが絵に描いた餅になる心配がある。

もう一つ、私たちが責任者を務める各団体でも色々な意見があるが、そのほとんどは、コンセプト以前の入って欲しい施設についての意見である。コンセプトと色々なニーズは相反することもあるので、この点も含めてまとめていく必要がある。そのような見方をすると、2つのコンセプト案はウェイト付けする必要もなく、並立しても施設の特徴は出るのではないかと感じている。コムシティに収まらないものは、黒崎周辺における都市機能整備の計画を考える時に、面的にどうするのかも含めて、議論すれば良い。

会 長 リーディングパワーの問題は、決定的に重要である。どのような方向で再生するのかを考える上で、コムシティを動かす主体がポイントになる。この検討会では、再生の方向性を出すだけでなく、財政的な問題、再生の成功を考える上での基準、具体的なマネジメントについても、ある程度は検討しなければならない。マネジメントの問題としては、常に主体的にコムシティに関わる人、組織全体を動かす人を公募採用することも考えられる。

2つのコンセプト案を並立するという意見については、両方を含めて、この建物はこうなんだという特徴が出てくれば良い。市民に情報発信するということはそういう意味である。ただし、運営していく上では、だいたいこの方向性で市民に納得してもらい、動かしていくというものがないと、出たところ勝負になってしまう。

委員 NPO・まちづくり団体等の活動拠点が、地域住民のための施設に位置づけられていることに違和感がある。私が所属する NPO は小倉に事務所を置いているが、小倉の街づくりだけではなく、北九州全域の街づくり、北九州の情報発信のために色々な活動をしており、地域住民のためだけに活動しているわけではない。

NPO や、普通の市民団体は、家賃を支払って事務所を構えるのが大変苦しい。また、仕事が終わってからの活動が主なので、市民センターが開いている時間に利用するのも難しい。そのため、時間が遅くても開いているファーストフード店やファミレスで、夜遅くまで会議をしているのが実情である。NPO 等の活動拠点を入れる場合には、家賃や開館時間等にも配慮していただきたい。

ムーブに入っているボランティアのサポートセンターでは、NPO 宛の手紙のポストを置いてもらえるが、郵便物を開館時間内に取りに行けないことがある。また、仕事に従事している昼間に電話対応できないことや、登記に必要な事務所所在地が確保できないなど、市民レベルの NPO 法人・まちづくり団体がなかなか成長しない。それらを成長させる上でのサポート拠点と位置付ければ、案 1 のコンセプトにもつながると思う。

再生後の運営主体も気になる場所である。区内にある西部障害者福祉会館には点字図書館やビデオライブラリが入っているが、これらの施設は黒崎(文化・交流拠点地区)の新しい図書館に入らないと聞いている。理由は厚生労働省と文部科学省に所管が分かれているからだとのことだが、市民から見れば、同じ図書館だと思う。コムシティについては、コンセプトを決めたら、所管が分かれることで同様の弊害が生じないように調整して欲しい。

コムシティの再生を街の賑わいに波及させていくことについては、個人的には難しいと考えている。国道 3 号という大きな川があり、商店街への波及効果は、すごく遠い将来にしか表れないので、現時点でそこまで考える必要はないと思う。市全体を考えた上で、黒崎のためにコムシティ再生の方向づけを検討している今が大きな転換期だと思うので、思い切った決断も必要だと思う。

会長 コンセプトを具体化するにあたっては、家賃や開館時間の問題も関係する。運営主体については、私個人の意見であるが、市民レベルの発想が乏しい公的セクターが担うのではなく、できればダイナミックに組織運営できる主体をつくりあげるのが大きな課題である。

委員 NPO や市民活動のためにフロアを活用するという案について、開館時間や家賃などの意見があったが、行政が生涯学習的な施設として運営するのか、運営の一部に私たちも関わるのか、そこも非常に大切だ。市に全て任せるのではなく、私たちも力を出しながら、運営に携わりながら交流できる場にしていきたいと思う。

会長 行政は担当者が人事のローテーションで変わるので、情熱を継続できる主体が必

要だ。

委員 どれぐらいの予算見積もりで、改良工事、補充工事をするのかお尋ねしたい。どのようにコムシティを使うにしても、人が寄り付きやすく、車も入りやすくしなければならない。そのためには、結構予算が要るのではと思う。

事務局 整備に要する予算については、どのような施設を入れるかによって金額が変わってくる。市民の方も納得できるものでないといけないので、まずは検討会からのご意見を踏まえ、市内部で検討し、決めていきたい。市の財政状況も厳しいので、青天井というわけにはいかないが、皆様の意見も踏まえ、費用対効果も考えながら詰めていきたい。

委員 各テナントが入っている部分の経営はそれぞれの責任である。私は、この検討会では経営的なことまで意見できないと考えている。最終的に責任をとるのは、北九州市、そのトップである市長だと思う。この施設を民間で運営していくのは非常に難しい。

事務局 検討会は、市民が納得出来る一定の方向性を提言していただくことになっている。市としては、検討会の意見も議会の意見も、もちろん市民の皆様方の意見も聞いた上で、市が責任をもってコムシティの再生を考えていきたい。

会長 実際に経営する主体と責任をもつ主体がある。当然、市にはどういった方向性で再生するか、最終的な責任があると思う。しかし、経営主体は行政である必要はない。行政は担当者がローテーションで変わるので、一貫性がなくなる。経営を実際に担う主体は公募しても良い。県内で成功している施設では、公募で決めた主体が情熱的に動いている。

委員 商業施設が半分以上になるなら、経営主体は民間のディベロッパーでも良い。しかし、現在のコンセプトでは、公共的な施設が半分以上になりそうなので、公共が主体になるものだと思う。

会長 民間の商業施設は自主的に経営してもらえば良い。しかし、この案のように公共の施設が多くなると、専門的に運営する主体が必要だと思う。

委員 コムシティを空き家のままにしておくわけにはいけないので、一日でも早く何かが入り、明かりを点けるようにして欲しい。専門的な施設を入れるという方法もあると思うが、八幡西区には、NPO や婦人会の事務所がなくて困っているので入れてほしい。小倉北区のムーブまで通うには、交通費等のお金がかかる。婦人会等の事

務所を置けば、少人数でも毎日誰かが出入りする。工夫して、人の気配を感じられるようにしていただきたい。

委員 コンセプトが具体的に出ているが、やはりスピードと実現可能性と家賃・コストが大事だ。オープンの目標は25年3月であるが、場合によっては部分的な開業というのもありうるのか。

実現可能性の面からは、国や県の施設は、移設を2年ぐらいかけて検討し、予算化するの、実現に4～5年かかると思う。2つのコンセプト案のどちらを主にするのかという議論があったが、コムシティはすごく広いので、商業を調整すれば両方を入れるのは十分可能であり、コンセプトを1つに絞る必要はない。

家賃・コストの面からは、今候補に出ている施設では、お金を取れそうなどころはないが、ランニングコスト、修繕費の負担が非常に重要である。コムシティも永久には維持できないので、建替えるときの費用も考えないといけない。また、NPOと商業施設の間で料金に相当な開きが出た場合、普通に料金を払う人の納得が得られるのかという問題もある。

事務局 年内に再生計画をつくり、25年3月の中心市街地活性化基本計画の期限までに再オープンということで考えている。しかし、関係機関との協議や組織づくりに時間がかかるので、一斉にオープンするのが難しい場合もある。そうすると、遅れて開業する部分も出てくる可能性はある。

委員 まず、運営管理は重要である。行政はきちんと計画を立て、着実に遂行するものだと思う。しかし、このような施設では色々な発想、民間の発想が必要なので、運営主体は、そのような考えも持ったところにするべきだ。二つ目に、コンセプト案を2つとも入れるとピントがぼけるので、1つに絞る方がよい。三つ目に、例えば、職業訓練がシンボリックな、コンセプトに近いものだとすれば、早期に目に見える形にしないとけない。コンセプトができ、コムシティが再生しても、実際の運営はどうなるのかということになりかねない。実際に施設が動き始めるのが後になるとしても、何か工夫する必要がある。

委員 2つのコンセプトは、人づくりも、地域づくりも、地域力向上も関連しているものなので、1つのコンセプトにすることができる。

委員 人づくり、街づくりはどちらも重要で、ある程度絞り込めば、どちらも実現可能だと思う。北九州の特色として、雇用に繋がれば、企業の発展にも繋がるので、その辺の考え方を取り入れたら良いと思う。検討会で議論し、最終的には市が決定すると思うが、その後は、検証しながらフォローしていくことを要望したい。

委員 用途のコンセプトだけではなく、この建物が10年20年続くためには、運営のコンセプトも必要だ。運営が行政になるのか、民間になるのかわからないが、用途だけで議論するのは表面的だと感じた。コンセプトにこだわりすぎて失敗した事例もある。人づくり、地域コミュニティは、現在の時流に非常に合っているが、10年後20年後も成立するのかは疑問がある。骨格になる部分と、変更可能な部分に分けて考える必要もある。

今日の資料には黒崎という言葉が出てないが、地域の方々が使わないとこの建物は成立しないと思う。コンセプトをまとめるときにも、そのことを入れて欲しい。

会長 コンセプトが5年後10年後も活きるのかというのは悩ましい意見だ。しかし、組織体にしても、ハコモノにしても、方向性が見えないまま動くと、出たところ勝負になる可能性があり、大変なことになる。意見をまとめるのは難しいが、2つのコンセプト案を活かした方向性を出すことになるのではないかな。

委員 コンセプト抜きで、例えば商業施設であれば何がいいのか考えてみると、個人的にはコムシティにアウトレットモールが入ればわくわくする。郊外の、車でしか行けないアウトレットモールが、気軽に電車やバスで行けると良い。コンセプトに関連して考えると、子どもに特化した商業施設にすると良いのではないかな。面積が大きいのでどちらも可能だと思う。

委員 人づくりは一貫したテーマになっているのでコンセプトに生かしてほしい。遊びを通して学ぶこともあるので、人づくりをあまり堅苦しく考えなくてもよいと思う。しかし、コンセプトだけで建物全体を引っ張るのは無理である。情報発信するときに、コムシティのカラー、色づけをどうするか、考えないといけない。

施設のマネジメントについては、近年、タウンマネジメント、エリアマネジメントなど、マネジメント組織を地域につくっていきこうという動きがある。それは、まずセキュリティや美化などを行って街の質を維持していきこうというものである。そのように管理組織がしっかりしていれば、中身が入れ替わってもそんなに心配はない。

(3)まとめ

会長 大体意見が出てきた。まずコンセプトについては、地域に根ざした要素と同時に、全市的な、そして情報発信できる機能も必要だということである。今回の意見を踏まえ、私の方でコンセプトをまとめていくが、このまとめ方として3つの方法があると思う。ウェイトをどちらかにおくという捉え方、両論併記的な捉え方、両方統合するという捉え方。私は、両論併記や、3案、4案あるのはやめたほうが良いと思うので、なるべく統一していきたい。皆さんのご意見を斟酌しながら、外にも訴

えることができるまとめ方にしたい。

もう1つ、この検討会は財政的、財務的、資金的な方向性を出すわけではないが、ある程度の切り口を入れて、運営主体はどのような仕組みが可能かということも考える必要がある。単に事務的に運営するだけでなく、流動的に動きながら発展していくものをつくりあげたい。それを活かしたマネジメントも切り口としてまとめたい。

商業機能は必要だが、この検討会で、入る業種の方向づけを詰める必要はないと思う。方向付けるのは3つのポイントで、1つ目は、我々が示した方向性に合致し、それを象徴したような業種。2つ目に、交通の結節点なので、人が集まることに焦点を当てた業種。3つ目は、利便性、駅前の賑わいづくりを考慮した業種。ただし、近隣の商業施設とは余り競合せず、相互にウィンウィンの関係となる施設づくり。そういうところがポイントではないか。

3. コムシティのネーミングについて

会 長 最後に新生コムシティの名称を含め、イメージが沸くような、夢のあるネーミングについての意見はないだろうか。

委 員 黒崎では、プリンスホテルがクラウンパレスとなっても、みんなプリンスホテルと呼んでいる。トポスの跡は旧トパス。新しい名前をつけても定着させるのは大変で、ものすごいコンセプトや仕掛けが必要になる。コムシティはすごくいい名前、変える必要はないのではと思うが、破綻の印象もあるので、悩ましいところだ。

委 員 コムシティは悪いイメージではない。

委 員 当初は多少負のイメージあるだろうが、5年10年したら変わるのではないか。

委 員 子どもの館はクローズアップされていたが、コムシティは、イメージができる前に破綻したため、愛称とまではなっていない。

委 員 コムシティは、最近浸透してきている。変えない方が良いと思うが、変えるならコムシティよりも圧倒的に良い名をつけなければならない。

会 長 当初から、コムシティとは良い名前をつけたなと思っていた。ラテン語で、コムというのは心から語り合うという意味である。だから、コミュニケーションという言葉があり、共同体をコミュニティと言い、結びつくことをコンバインと言う。コムというのは非常に温かい言葉で、人間が心の底から結びつくという意味である。

そのシティ、これほど良い名は無いと思う。

4. 今後の進め方について

会 長 次回、最終案のたたき台をつくり、皆様と議論したい。たたき台は、今日の議論を十分に踏まえ、なるべく拡散しないようにまとめていきたい。そして、コンセプトは2案ではなく、1案としてまとめた方がすっきりするので、その方向でまとめる。

事務局 会長より、次回議論したいということだったが、時間的なこともあり、場合によっては報告案としてまとめたものをご覧いただくことも考えられる。最終的なまとめ方については、会長と相談した上で、皆さんにお諮りしたい。